

飛耳長目〈第17回〉開催概要

日時	令和5年11月22日(水) 午前10時30分～正午
場所	安曇野市役所本庁舎 共用会議室 305
テーマ	槍ヶ岳開山 200周年にあわせた企画および安曇野が持つ新しい価値の創造
参加者	小倉地区の有志 3人

参加者 今回提案する企画は、三郷南小倉ふるさと講座で話したことが元になっている。自分は三郷村時代から登山道整備を行っていて14年目。そして三郷西部認定こども園の検討委員会では保育園継続のために協力を惜しまないとしていて、この度実際に建て替えていただいた。安曇野市に感謝しているので、市にとってプラスになる事ができればと考えている。

参加者 【地図の動画を使った説明】現在はスカイラインから登山道が始まり大滝山へ登る。そこが飛州新道の出発点。飛州新道は登山を目的としたものではなく、昔は牛馬が通った道なので、比較的幅が広く、なるべく高低差が少なくなるよう、ピークを避けた一直線の道になっている。途中には崩れやすく、残っていないところも多いと考えられる。大滝山を通り梓川へ出る。そこから上高地、焼岳を通り、飛驒に抜けるというルート。終着点の神坂には番所があった。地図で見るとわかるが、一直線に最短距離を行っている。

【槍ヶ岳へのルートの説明】飛州新道を元に進むと、八丁ダルミに分岐があり、蝶ヶ岳の方へ行く。熊倉沢を一気に下り、沢を渡って槍ヶ岳まで行く。こちらも地図を見てわかる通り、一直線で最短距離のルートである。これらの全体像を元に今日は話をしていきたい。

まずは企画を簡単に説明する。今年6月の市議会一般質問において、三郷地域の観光資源・施設の活用についての質問に対して、飛驒(飛州)新道と播隆上人の槍ヶ岳開山、その案内役の中田又重の話があった。地元三郷小倉地区の住民として、具体的に何が出来るかを考えた。小倉地区や三郷地域といった狭い範囲にとらわれず、安曇野市全体の歴史や文化、観光などの様々な面での振興となるように、また、これからの安曇野市、未来の安曇野を担う人たちのためになるように、飛州新道開拓の歴史や槍ヶ岳開山の歴史を生かすことを考えた。2028年が槍ヶ岳開山 200周年の年になる。200周年というのはインパクトがあり、そうそうあるものではない。この企画書を軸に官民協力して何か出来たらと考える。企画は大きく分けて3つ。

- ① 古代中世から続く安曇野の堰開拓の歴史、その到達点といえる拾ヶ堰開拓の歴史より連なる一連の歴史として、「拾ヶ堰の開拓」、「飛州新道の開拓」、「槍ヶ岳開山」の3つの歴史を1つの歴史としてストーリー性を持たせ、安曇野の歴史として発信する。コミュニティFMによるラジオドラマの発信については具体的に動き出している。
- ② 松本駅前にある播隆上人像と元々対としてつくられた中田又重郎像を、新たに安

曇野市に二人像として建立し、歴史の発信を劇場的に行う。

中田又重郎像の作者は安曇野市穂高地区出身の小川大系であり、槍ヶ岳開山の歴史も安曇野の歴史。安曇野市に建立する意味は十分にある。松本駅にある播隆上人像は当初の計画では中田又重郎像と並んで建てられる計画だったが、作者の上條俊介が亡くなり、単独の像となっている。小川大系が作製した中田又重郎像もあったが、並べられることはなかった。今から7年後の2030年が小川大系、播隆上人像の作者上條俊介の没後 50年に当たる。萩原碌山と並ぶ安曇野の偉大な彫刻家小川大系の顕彰活動もあわせて行えば、相互に相乗効果のある、発信力の高い事業が出来ると考える。二人像の建立においては安曇野 AIR を活用し、建立するのも面白い。

③ ①、②の2つの事業を通して歴史の浸透を図り、新しい山岳観光の創出や、白井吉見の「安曇野」の大河ドラマ化に続く、安曇野発の大河、または朝ドラへの挑戦。

山岳観光については、幕末の安曇野は飛州新道により上高地を経て飛騨高山と繋がりが、播隆上人の槍ヶ岳開山は安曇野を出立の地としてなされた。現在は上高地を経て槍ヶ岳などの北アルプスに行くルートがメジャーだが、安曇野は元祖北アルプスの表口といえる。安曇野市には常念山脈の稜線に至る 4 本の登山口(大滝山・三股・一の沢・中房)があり、常念山脈の稜線は、北アルプス槍・穂高連峰の大パノラマが望める第一級の展望台であり、また、常念山脈の稜線は北アルプス表銀座の喜作新道をはじめ、北アルプスの様々な名峰や上高地に続く多様なルートがある。この4本の登山道にはそれぞれ歴史があり、道を作った先人の思いやその道を愛した安曇野の先人の歴史がある。この 4本の登山道にストーリー性を持たせ、4本の登山道そのものの価値を高め、安曇野が北アルプスへの玄関口であるという情報発信ができれば面白いと考える。現在松本市と高山市で「松本高山 Big Bridge 構想実現 Project」が行われている。この「松本高山 Big Bridge 構想実現 Project」と安曇野市で、包括的連携による新しい山岳観光が展開できれば面白い。来年には「松本高山 Big Bridge 構想実現 Project」の一環として全長 100km超の「信飛トレイル」が開通予定。飛州新道は安曇野市、松本市(上高地)、高山市(奥飛騨温泉郷)を結ぶ42km ほどの道だった。飛州新道をなぞり、40~50km ほどのトレイルがあったら面白い。

白井吉見の「安曇野」のように、拾ヶ堰の開拓、飛州新道の開拓、槍ヶ岳開山の 3 つの歴史が一つの物語として小説となり、安曇野の歴史として次世代に語り継がれていくことが、私たちの夢である。

市長 企画自体には大いに賛成。ただ、東京芸大AIRを使って銅像を作るのは難しい。なぜなら像を鑄造するような芸術家はあまりいないため。もう一回鑄造するということか。

参加者 東京芸大 AIR に限らず、芸術的なセンスがある人が関わってほしい。

市長 上條俊介の播隆上人像は松本駅前と朝日美術館にあるが、朝日美術館は動かせないとのことで難しそう。法蔵寺に中田又重像があるという話を聞いている。

参加者 松本駅の再開発の時に隣に又重の像も立てるといった計画が浮上したが、結局流れたと聞

いた。今松本駅に播隆上人像があるが、できれば安曇野で実現したい。播隆上人と又重が安曇野から北アルプスを眺めていた姿が再現できれば。

市 長 この話をいただく前から又重の像と播隆上人の像を並べたいと考えていた。一時的にでもいいから実現できないか。

参加者 小川大系の作った石膏像が生家にあるらしい。

市 長 5体ぐらいまでなら石膏像から铸造できるのでは。

参加者 朝日美術館にもこの企画書を持って行って、脈があるか確認しに行きたい。

市 長 朝日村村長は知り合いなので話もできる。

参加者 ただこの時代にお金をかけていいのかという葛藤はある。

市 長 再来年は市政 20 周年にあたるので、多少のお金はかけられる。

参加者 宗教的な面があるので、市と一緒に取り組めるかが不安。

市 長 宗教的な目的のほかに観光的な目的があれば問題ないという判例が出ているので問題ない。一つ懸念しているのが、小説『槍ヶ岳開山』での播隆上人が、妻殺しの贖罪のために槍ヶ岳に登ったという話になっていて、人殺しのイメージがあること。史実ではないのに。

参加者 槍ヶ岳山荘の先々代のオーナーが取材に協力していて、作者の新田氏から「出家の口実が欲しい」と言われたが、まさか妻を殺してという話になると思わなかったそう。ノンフィクションだが実名が出ているので事実のようにとらえられてしまっている。『槍ヶ岳開山』は文学作品としては面白いので、映像化したら反響がありそう。

市 長 新田氏は山岳小説の第一人者で、播隆上人を『槍ヶ岳開山』で知ったという人も多い。そのイメージが強すぎる。実名で載っているのに史実でないというのが難しいところ。

参加者 本が出てから 50 年位経っているので、今はそんなに影響力はないと思うが、絶版にはなっていない。新しい小説が出ればいいが、自分でも挑戦してみたが難しかった。文才が無いと。

参加者 安曇野の開拓と槍ヶ岳開山に関する新しい物語を発信できたらと思う。安曇野平の開拓と槍ヶ岳の開山がつながっているというのが面白い。安曇平を開拓したからこそ、「できたお米をもっと売りたい」となり、良い道(飛州新道)があり、良いガイド(又重)がいるということがあって槍ヶ岳開山につながった。

参加者 播隆上人はただ槍ヶ岳に登頂したのではなく、いろいろな道を作った。

市 長 非常によくできた企画書で、できることならばやりたい話。課題は資金。資金調達方法として、クラウドファンディングも考えられるが、集まる時と集まらない時とある。碌山美術館は目標を大きく達成していたが、一方で失敗したという記事もよくある。

参加者 任意っていうのが大事。仕掛けてどれだけ多くの人に知ってもらうか。槍ヶ岳開山 200 周年がもう間もなくで、ちょうどいい時。ただ早く手を付けていかないと間に合わない。

参加者 像ができた経緯も面白いので、小川大系さんと上條俊介さんの人生もあわせて発信出来たらいいと思う。

市 長 細かいところは別として大枠には賛成。これをどんなタイムスケジュールでどうやって進めていくか。学識経験者などを呼んで実行委員会として進めていくとなると手間がかかる。ここまで企画書があるので、あとは専門家の意見を聞きながら有志の皆さんと市との協働という形でやる方が進めやすいかもしれない。

参加者 今回市長にお話しできた。また中田又重像を所蔵する法蔵寺が一丁目一番地だと思うので話をして、企画書を10部届けてある。槍ヶ岳山荘などの関係者にも。このように火はつけてあるがそれがどうなっていくか。

市 長 関係者からうまく関係を作っていく必要があるそう。

参加者 法蔵寺の大澤さんも興味を持ってもらえるのは嬉しいと思う。テレビでドラマをやった時に播隆上人の役をやったくらい思い入れがある。

市 長 この企画書を読むまでは奥さんを殺したのかと思っていた。

参加者 それが定着してしまい、様々なところでしこりが残ってしまっている。新田さんの小説も松本駅に播隆上人の像が設置されたのも、50 年も前。そろそろ汚名を晴らす時期。

参加者 松本市では又重の像設置が検討されたが、市議会で宗教的だと言われてたりして実現しなかった。松本駅前の播隆上人像はライオンズクラブの寄付によるもの。

市 長 18 世紀後半から19世紀は御岳講や富士講など各地で山岳信仰がさかんになり、山岳の修験道と仏教の要素のある人が各地で布教を始めた時期。槍ヶ岳は少し遠かったから槍ヶ岳講は短命だった。

参加者 他の人の許可を得ずにすぐ取り組めるものとして、ラジオドラマの実現に向けて動いてい

る。安曇野エフエム、エフエムまつもと、高山の3局で共同企画として番組を作製し発信する。1回15分くらいの連続放送で、詳細は企画書の通り。

市 長 いきなりやるのではなく、播隆上人や又重の歴史を掘り下げ、知名度をあげる行動をじわじわとやっていくのが大事。

参加者 高山市や松本市を絡めるのが面白いと考えている。

市 長 けんかをするわけではないけれど、播隆上人と又重郎を松本から取り戻さないといけない。今は松本のものになってしまっている印象。

市 長 直接あづみのエフエムに話をしに行ってもらってもいいし、花村会長は後援会の会長なので話をする事ができる。同時並行かちょっと遅らせてでもいいけれど、ラジオだけでなく市民タイムスでも連載できるといい。小説「安曇野」も、原本は読破が難しいが、市民タイムスに連載した「白井吉見の『安曇野』を歩く」という書籍はわかりやすくいい。

参加者 市民タイムスは読者が多くて影響力がある。

参加者 中田又重が残した資料は50年前くらいに火事で焼失してしまった。放っておくと歴史がわからなくなってしまう。継承しなきゃと思ってはいるが、捨てられてしまったものもある。地域の先人が情熱をもって挑んだ歴史を、悲劇の歴史にしてはならない。早く手を付ける必要がある。

市 長 旧三郷村時代を含めてこれまでに三郷公民館で中田又重を顕彰する展示等はやったことがあるか。

参加者 ない。そういうところから手を付けるのはいいアイデアだと思う。自分たちの頭の中にあるものを整理するという意味でも。

市 長 小説『安曇野』のパンフレットのようにまとめるとわかりやすい。小説『安曇野』の大河ドラマ化に向けても、外枠から埋めて行こうと思って、地元でもっと知ってもらうための働きかけをしている。同様にまず地元で、こういうことがあったということを広く知らせていくと良いのでは。今回の話で良い所は、1816～1820年あたりの拾ヶ堰の開拓とそれに伴うあまり米の出荷のための飛州新道の開拓というのが分かりやすいストーリーになっていること。文化課と相談して、一度三郷で展示を開催して地元の人に知ってもらう。開山200周年まであと5年あるので、ちよくちよくやっていくといいと考える。とりあえず来年あたりに。

参加者 やっぱり本があればいいと思う。市民タイムスに協力してもらえれば。

市 長 小説じゃなくてもいい。『三郷の歴史』ではこのあたりの歴史に触れているか。

市職員 飛州新道や三郷スカイラインの話が掲載されている。

市 長 そうやって少しずつ花火をうちあげて、一気に開かせたい。そうはいつでも 2025 年あたりから仕掛けないといけない。この2年間はそのための準備期間。郷土博物館など、事実関係を検証して本を書ける人はいるか。

市職員 なかなか難しい。

参加者 おもしろく、興味を持ってもらうために文章を書くのは難しい。こちらで大まかに書いた土台を作っておくのでそれを推敲してもらえれば。

市 長 最近論文を書いたが、書き方の決まりが細かくあって、語尾にも気を使って苦労した。展示には市も協力する。今現在どんな資料が残っているか。

参加者 物はあるけど展示できる状態かが不安。映像やパネルで「ここを通過」とかいうことを示すことは出来る。江戸時代の飛州新道の絵もところどころある。中村さんの資料で昔の古図を見たことがあるが、亡くなって絵の行方が分からなくなってしまっている。昔の古図があれば面白いが。

市 長 これまでの話をまとめると、①中田さんの原稿をもとにエフエムでラジオドラマを放送できるか検討 ②残された資料の発掘をふくめ、三郷公民館で飛州新道や播隆上人・又重を紹介する企画展の開催 ③本を作る前に小説「安曇野」パンフレットのような、簡単に読める印刷物を作る。長野県の元気づくり支援金も活用しながら取り組み始められれば。

参加者 とてもいいと思う。小川大系と上條俊介の物語に光を当てるのも面白いと考えている。

市 長 小川大系と上條俊介の伝記みたいなものはあるか。

参加者 上條俊介については本が出版されていてかなり詳しく書かれている。小川大系はほとんど検証がされていない。穂高に子孫がいて、又重の石膏像もあると聞いた。

市 長 市政 20 周年記念事業であれば予算が通しやすくなるので、石膏像があればつくれるかもしれない。

参加者 小川大系の子孫にもこういったお話をしていきたい。こうした取り組みがどこかで大きくメディアに取り上げられれば。7年後の没後 50 年に向けても段取りを組んでいける。

市 長 メディアには一度大きくというよりは断続的に取り上げてもらえるようにした方が効果的。

参加者 播隆上人、中田又重というよりは、上條俊介、小川大系の作品を一堂に並べるような機会を作るとより多くの人に興味を持ってもらえるのかもしれない。

市 長 穂高会館で小川大系の展示を見たことがあるが、あれは何だったか。

課 長 美術館等がまだなかった昭和50年位に、穂高会館で小川大系の作品が一堂に会する展示会を開催したことはある。

参加者 今日は今できることや方向性を提案していただいて、より具体的に企画をイメージすることができた。

市 長 石膏像から鑄造するためのお金は市で予算を出してもいいし、クラウドファンディングで集めることも考えられる。

参加者 それまでに民意を盛り上げておく必要がある。

市 長 そうしないと大赤字になってしまう。

参加者 ライオンズクラブが松本駅前に像を立てたような、一つの団体が全額出して作るということではできないので、広く少しずつ賛同や協力を得られれば。そういう機運を醸成していきたい。

市 長 今言った話をじわじわとやっていく。市議会議員も巻き込んでいろんな党派を超えてやっていく必要がある。

参加者 農業遺産の申請が2年に1回ある。3年後の申請に通れば、5年後にちょうど槍ヶ岳開山200周年と農業遺産登録記念を重ねることができるかもしれない。槍ヶ岳開山が農業開拓とつながっているのだからちょうどいいと考えている。

市 長 事務的な面でどうやって進めていくか整理してやっていきましょう。どういう順番で取り組んでいくか案を作って提案する。大変だけど面白い企画。面白いと思ってワクワクしてやっていくことが大切。